資治通鑑 第165巻

【梁紀二十一】　起昭陽作噩，盡閼逢閹茂，凡二年。

■梁、●西魏、北齊北齊、続国訳漢文大成 経子史部 第9巻 275p

世祖孝元皇帝下承聖二年（５５３年）

■春，正月，**王僧辯**は建康を發し，製を承けて**陳霸先**（京口駐屯）をして代わりて揚州に鎮せ使む。

北齊丙子（12-0+1=１３日），山胡は齊の離石を圍む。戊寅（13-0+1=１４日），**齊主**は之を討ち，未だ至らず，胡は已に走り，因りて三堆（魏收地形志に永安郡平寇県は魏の太平眞君七年に三堆を併せてこれに属すと、山西省雁門道崞県、現・忻州市原平市）を巡り，大獵し而して歸る。

■吏部尚書の**王褒**を以て左僕射と為す。

北齊［北齊の常平五銖］己丑（25-0+1=２６日），齊は錢を改鑄し，文に「常平五銖」（五代志に、齊の文宣は魏の永安の五銖を除き、改めて常平の五銖を鋳る、重さ其の文の如し、其の銭は甚だ貴く、且つ制造甚だ精しと）と曰う。

■［陸納は李洪雅を主と為す］**二月**，庚子（36-30+1=７日），**李洪雅**（去年呉藏は李洪雅を攻める）は力屈し，空雲城を以て**陸納**に降る。**納**は**洪雅**を囚え，**丁道貴**を殺す。**(9-276p) 納**は沙門の**寶志**の詩讖（天監中に寶志は讖を為りて云う、太歳龍將は理無し、蕭は霜を経て草應に死すべし、餘人散じ十八子と。時に言う。蕭氏當に滅びるべし。李氏代わりて興らんと）に「十八子」有るを以て，以て**李氏**は當に王為るべし，甲辰（40-30+1=１１日），**洪雅**を推して主と為し，大將軍と號し，平肩輿に乘ら使め，鼓吹を列ね，**納**は衆を帥いること數千，左右に翼從す。

●魏の太師の**泰**は丞相、大行台を去り，都督中外諸軍事と為る。

●**王雄**は東梁州に至り，**黃衆寶**は衆を帥いて降る。太師の**泰**は之を赦し，其の豪帥を雍州に遷す。

北齊［柔然突厥契丹の攻防］**齊主**は柔然可汗の**鐵伐**之父の**登注**及び兄の**庫提**を送りて其の國に還らしむ。**鐵伐**は尋ぎて契丹の殺す所と為り，國人は**登注**（前巻前年に齊に奔る）を立てて可汗と為す。**登注**は復た其の大人の**阿富提**の殺す所と為り，國人は**庫提**を立てる。突厥の**伊利可汗**は卒し，子の**科羅**は立ち，**乙息記可汗**と號す。**三月**，遣使して馬五萬を魏に獻じる。柔然の別部は又た**阿那瓌**の叔父の**鄧叔子**を立てて可汗と為す。**乙息記**は**鄧叔子**を沃野の北木賴山に擊破す。**乙息記**は卒し，其の子の**攝圖**を捨て而して其の弟の**俟斤**を立て，**木桿可汗**と號す。**木桿**の狀貌は奇異にして，性は剛勇なり，智略多く，善く用兵し，鄰國は之を畏る。

【西魏は蜀に侵攻、漁夫の利】

■●［宇文泰は蕭繹の要請を機に蜀に出兵］**上**は武陵王の**紀**の東下を聞き，方士をして版に畫きて**紀**の像を為(つく)ら使め，親ら支體に釘うち以て之を厭（厭勝）し，又た**侯景**之俘を執り以て**紀**に報じる。初め，**紀**之舉兵するは，皆な**太子**の**圓照**之謀也。**圓照**は時に巴東（信州）に鎮し，使者を執り留める。**紀**に啟して云う、「**侯景**は未だ平らがず，宜しく急に進み討つべし。已に荊鎮は**景**の破る所と為るを聞く。」

紀は之を信（続は従）じ，兵を趣(うなが)して東に下る。**上**は甚だ懼れ，魏に書を與えて曰く、

「**子糾**，親也，請う君は之を討つべし。」（左傳に、齊の無知は其の君を弑す。雍廩は無知を殺す。公子小白は莒より齊に入る。魯の莊公は齊を伐ち、子糾を納れる。魯の師は敗績す。齊の鮑叔は師を師いて来たり、言って曰く、子糾は親なり、請う君これを討てと。乃ち子糾を殺す）

太師の**泰**は曰く、

「蜀を取り梁を制するは，茲の一舉に在り。」
諸將は鹹な之を難しとす。大將軍の代人の**尉遲迥**（尉遲姓は後にタングート西夏などの姓）は，**泰**之甥也，獨り以て克つ可しと為す。**泰**は問うに方略を以てし，**迥**は曰く、
「蜀は中國と隔絕すること百有餘年，其の險遠（続は險）を恃み，我の至るを慮（続による、虞×）らず。若し鐵騎を以て兼行して之を襲えば，克たざるは無し矣。」
泰は乃ち**迥**を遣わして開府儀同三司の**原珍**（周書尉遲迥傳には元珍）等六軍を督し，甲士は萬二千，騎は萬匹，散關より蜀を伐たしむ。
■［王僧辯と蕭循は東西都督］**陸納**は其の將の**吳藏**、**潘烏黑**、**李賢明**等を遣わして下りて車輪（湘江の要衝、長沙近く）に據らしむ。**王僧辯**は巴陵に至り，宜豐侯の**循**は都督を**僧辯**に讓らんとし，**僧辯**は受けず。**上**は乃ち**僧辯**、**循**を以て東、西の都督と為す。**夏，四月**，丙申（32-29+1=４日），**僧辯**は車輪に軍す。
●［宇文泰は吐谷渾を討つ］吐谷渾可汗の**誇呂**は，魏に使いを通じると雖も而るに寇抄は息まず，**宇文泰**は騎三萬を將いて隴を逾え，姑臧に至り，之を討つ。**誇呂**は懼れ，服するを請う。既に而して復た使いを齊に通じる。涼州刺史の**史寧**は其の還るを覘い知り，之を赤泉（甘肅省甘涼道武威県、現・武威市）に襲い，**(9-277p)** 其の僕射の**乞伏觸狀**を獲る。
■［王僧辯は陸納を長沙に囲む］**陸納**は岸を**夾**みて城を為り，以て**王僧辯**を拒む。**納**の士卒は皆な百戰之餘なり，**僧辯**は之を憚り，敢えて輕々しく進まず，稍く連城を作り以て之に逼る。**納**は**僧辯**を以て怯と為し，備えを設けず。**五月**，甲子（60-58+1=３日），**僧辯**は諸軍に命じて水陸齊しく進み，急に之を攻め，**僧辯**は親ら旗鼓を執り，宜豐侯の**循**は身ずから矢石を受け，其の二城を拔く。**納**の衆は大敗し，步走し，長沙を保つ。乙丑（1+60-58+1=４日），**僧辯**は進みて之を圍む。**僧辯**は輿上に坐し圍壘を築くを視，**吳藏**、**李賢明**（元は侯景の將、王琳に帰す）は銳卒千人を帥いて開門して突出し，楯を蒙りて直進し，**僧辯**に趨く。時に**杜龕**、**杜龕**は並びて左右に侍し，甲士の衛者は止だ百餘人，力戰して之を拒む。**僧辯**は胡床に據りて動かず，**裴之橫**は旁より**藏**等を擊ち，**藏**等は敗退し，**賢明**は死し，**藏**は脫走して城に入る。

【西魏は成都占領、蕭紀滅亡】

■●［尉遲迥は成都急襲、楊乾運は二股］武陵王の**紀**は巴郡に至り，魏兵有るを聞き，前梁州刺史の巴西の**譙淹**を遣わして軍を還して蜀を救わしむ。初め，**楊乾運**は梁州刺史と為るを求め，**紀**は以て潼州（五代志に、金山郡に西魏は置くと。梁は既に置く。涪城に治す）と為す。**楊法琛**は黎州刺史と為るを求め，以て沙州（蓋し平興を以て沙州と為す、嘉陵道昭化県、現・広元市元壩区）と為す。二人は皆な悅ばず。**乾運**の兄の子の**略**は**乾運**を說いて曰く、
「今**侯景**は初めて平らぐ，宜しく同心して力を戮せ，國を保ち民を寧んじるべし，而るに兄弟は戈を尋い，此れ自ら亡びる之道也。夫れ木朽ちれば雕まず（論語公治長篇に、孔子曰く、朽木は雕る可からず），世衰えれば佐け難し。款を關中に送るに如かず，以て功名兩つながら全くす可からん。」
乾運は之を然りとし，**略**をして二千人を將いて劍閣に鎮せ令め，又た其の婿の**樂廣**を遣わして安州（五大代志に、晉安郡に梁は南安州を置き、後改めて安州と為すと。故城は今の四川省嘉陵道劍閣県、現・広元市劍閣県）に鎮せしめ，**法琛**と皆な潛に魏に通じる。魏の太師の**泰**は密に**乾運**に鐵券を賜い，驃騎大將軍（西魏の官、柱國大將軍に次ぐ）、開府儀同三司、梁州刺史を授ける。**尉遲迥**は開府儀同三司の**侯呂陵始**を以て前軍と為し，劍閣に至り，**略**は退きて**樂廣**に就き，城を翻して**始**に應じ，**始**は入りて安州に據る。甲戌（10+60-58+1=１３日），**迥**は涪水に至り，**乾運**は州を以て降る。**迥**は軍を分けて之を守り，進みて成都を襲う。時に成都の見兵は萬人に

滿たず，倉庫は空竭し，永豐侯の**撝**（摠×）は城に嬰りて自ら守り，**迥**は之を圍む。**譙淹**は江州（四川省建昌道彭山県、現・眉山市彭山区）刺史の**景欣**、幽州刺史の**趙拔扈**を遣わして成都を援けしめ，**迥**は**原珍**等をして擊た使め之を走らす。

■［蕭紀は蜀に還らず東下を継続］武陵王の**紀**は巴東に至り，**侯景**の已に平らぐを知り，乃ち自ら悔い，**太子**の**圓照**を召して之を責め，對えて曰く、

「**侯景**は平らぐと雖も，江陵は未だ服さず。」

紀も亦た以えらく既に尊號を稱し，復た人の下に為る可からずと，遂に東進せんと欲す。將卒は日夜歸るを思い，其の江州刺史の**王開業**は以為く、

「宜しく還りて根本を救い，更に後圖を思うべし」

諸將は皆な以て然りと為す。**圓照**及び**劉孝勝**は固く不可と言う，**紀**は之に從い，衆に宣言して曰く、

「敢えて諫める者は死せん！」**(9-278p)**

と。己丑（25+60-58+1=２８日），**紀**は西陵に至り，軍勢は甚だ盛んなり，舳艫は川を翳う。護軍の**陸法和**は二城を峽口の兩岸に築き，石を運びて江を填め，鐵鎖之を斷つ。

■［任約を解放して登用］**帝**は**任約**を獄から抜き，以て**晉安王**（子の方智を封じる）の司馬と為し，**法和**を助けて**紀**を拒ま使め，之に謂って曰く、

「汝の罪は誅に容れず，我は汝を殺さざるは，本は今日の為なり！」

因りて禁兵を撤して以て之に配し，仍って妻すに廬陵王の**續**之女を以てするを許す，宣猛將軍の**劉棻**をして之と俱にせ使む。

■庚辰（16+60-58+1=１９日），巴州刺史の**余孝頃**は兵萬人を將いて**王僧辯**に長沙に會す。

■［豫章太守蕭永の軍崩壊］豫章太守の觀寧侯の**永**は，昏に而して斷少なし。左右の**武蠻奴**は事を用い，軍主の**文重**は之を疾む。**永**は兵を將いて**陸納**を討ち，宮亭湖に至り，**重**は**蠻奴**を殺し。**永**の軍は潰え，江陵に奔る。**重**は其の衆を將いて開建（宋の文帝は臨賀軍の封陽県を分けて立てた県）の**侯蕃**に奔り，**蕃**は之を殺し而して其の衆を有つ。

■［蕭繹の万策、湘州平らげ蕭紀に向ける］**六月**，壬辰（28-28+1=１日），武陵王の**紀**は連城を築き，攻めて鐵鎖を絕ち，**陸法和**は急を告げること相い繼ぐ。**上**は復た**謝答仁**（去年侯景敗れ、獄に繋ぐ）を獄より抜き，以て步兵校尉と為し，兵を配して**法和**を助け使む。又た遣使して**王琳**を送り，（王琳をして）**陸納**を說諭せ令む。乙未（31-28+1=４日）、**琳**は長沙に至り，**僧辯**は（人をして）送りて之を示さ使め，**納**の衆は悉く拜して且つ泣き，（人をして）**僧辯**に謂って曰わ使む、

「朝廷が若し王郎を赦せば，乞う城に入るを聽せ。」

僧辯は許さず，復た江陵に送る。**陸法和**は救いを求めて已まず，**上**は長沙の兵を召さんと欲し，**陸納**を失うを恐れ，乃ち復た**琳**を遣わして其の城に入るを許す。**琳**は既に入り，**納**は遂に降り，湘州は平らぐ。**上**は**琳**の官爵を復し，兵を將いて西に峽口を援け使む。

北齊甲辰（40-28+1=１３日），齊の章武景王の**庫狄干**は卒す。

■［蕭紀は進退窮まる］武陵王の**紀**は將軍の**侯睿**を遣わして衆七千を將い，壘を築きて**陸法和**と相い拒む。**上**は遣使して**紀**に書を與え，其の蜀に還り，一方を專政するを許す。**紀**は從わず，報書は家人の禮（君臣の禮でなく兄弟の禮）の如し。**陸納**は既に平らぎ，湘州の諸軍は相い繼いで西上し，**上**は復た**紀**に書を與えて曰く、

「吾が年は一日之長為り，屬亂を平らぐ之功有り，此の樂推に膺り，事は當璧（左傳に、楚の共王は冢適無く、

寵子五人有り、適として立てる無し。乃ち大に群望に事有り、而して祈りて曰く、請う神、五人の者を擇びも社稷を主らしめよと。乃ち遍く壁を以て群望に見えて曰く、壁に當りて拝する者は、神の立てる所なりと。既にして乃ち密に壁を太室の庭に埋め、五人の者をして齊して入りて拝せしむ。康王は之に跨がり、靈王は臂これに加わり、子午・子晳は皆これに遠ざかり、平王は弱にして抱かれて以て入り、再拝し、皆紐を厭す。後に平王卒に楚國を有つ）に歸す。倘し遣使する乎，良に遲つ所也。如し然らずと曰えば，此に於いて筆を投げん。友于の兄弟は，形を分け氣を共にし，兄は肥え弟は瘦せ，復た相見（梁書武陵王傳には代）る之期無し，棗を讓り梨を推し（漢の孔融は七人兄弟の六番目。四歳の時諸兄と共に梨棗を食う。乃ち小なる者を引く。人は其の故を問う。答えて曰く、我は小児なり、法として當に小なる者を取るべしと。人皆これを異とす），永く歡愉之日を罷む。心に乎愛す（兄弟の愛は心に存す）矣，書は言を盡くさず。」(9-279p)

紀は兵を頓すること日久しく，頻に戰いて利あらず，又た魏寇の深く入り，成都の孤危なるを聞き，憂懣して為す所を知らず。乃ち其の度支尚書の**樂奉業**を遣わして江陵に詣りて和を求めしめ，前旨に依りて蜀に還るを請う。**奉業**は**紀**が必ず敗れると知り，上に啟して曰く、

「蜀の軍糧は乏しく，士卒は多く死し，危亡は待つ可し。」

上は遂に其の和を許さず。

■［蕭紀の軍勢の解体］**紀**は黃金一斤を以て餠と為し，餠百を篋と為し，百篋有るに至る，銀は金に五倍し，錦罽、繒彩は是に稱う，戰う毎に，將士に懸示するも，以て賞と為さず。寧州刺史の**陳智祖**は之を散じて以て勇士を募るを請い，聽さず，**智祖**は哭し而して死す。事を請う者有れば，**紀**は疾と辭（続は称）して見えず，是に由りて將卒は解體す。

■［蕭紀の滅亡、太子も餓死させる］**秋，七月**，辛未（7+60-57+1=１１日），巴東民の**符升**等は峽口の城主の**公孫晃**を斬り，**王琳**に降る。**謝答仁**、**任約**は進みて**侯睿**を攻め，之を破り，其の三壘を抜く。是に於いて兩岸の十四城は俱に降る。**紀**は退くを獲ず，流れに順いて東に下り，游擊將軍の南陽の**樊猛**は追いて之を擊ち，**紀**の衆は大いに潰え，水に赴きて死する者は八千餘人，**猛**は圍み而して之を守る。**上**は密に**猛**に敕して曰く、

「生還は，功を成さざる也。」

猛は兵を引いて**紀**の所に至り，**紀**は舟中に在り床を繞り而して走り，金囊を以て**猛**を擲ちて曰く、

「此を以て卿を雇わん，我を送り一たび七官を見せしめよ。」

猛は曰く、

「**天子**は何に由りてか見ゆる可けん！足下を殺せば，金は將たまた安くに之かん！」

遂に**紀**及び其の幼子の**圓滿**を斬る。**陸法和**は**太子**の**圓照**兄弟三人を収めて江陵に送る。**上**は**紀**の屬籍を絕ち，姓を**鬱餮**（財を貪るを鬱、食を貪るを餮）**氏**と賜わる。**劉孝勝**を獄に下し，已に而して之を釋す。**上**は江安侯の**圓正**に謂って曰わ使む、

「西軍は已に敗れ，汝の父は存亡を知らず。」

意は其の自裁せ使めんと欲す。**圓正**（捕虜になるは前巻簡文帝大寶二年にあり）は之を聞き號哭し，世子と稱すること聲を絕たず（世子は紀の世子の圓照をいう。世子が紀を誤りしを咎める）。**上**は頻に之を覘わ使め，死する能わざるを知り，移して廷尉に獄に送り，**圓照**を見，曰く、

「兄は何ぞ乃ち人の骨肉を亂し，痛酷此くの如くせ使むるや！」

圓照は唯だ云う、

「計を誤まる」。

上は並せて命じ食を獄に絕たしめ，臂を嚙みて之を啖らうに至り，十三日而して死し，遠近は聞き而して

之を悲しむ。
■乙未（31+60-57+1=３５日?八月か），**王僧辯**は江陵に還る。諸軍に詔して各々鎮する所に還らしむ。
●■［成都の永豐侯撝は魏の尉遲迥に降る］魏の**尉遲迥**は成都を圍むこと五旬，永豐侯の**撝**（撝×）は屢々出でて戰い，皆な敗れ，乃ち降を請う。諸將は許さざらんと欲し，**迥**は曰く、
「之を降せば則ち將士は全くし，遠人は悅ぶ。之を攻めれば則ち將士は傷つき，遠人は懼れる。」
遂に之を受ける。**八月**，戊戌（34-27+1=８日），**撝**は宜都王の**圓肅**と文武を帥いて軍門に詣りて降る。**迥**は禮を以て之に接し，與に益州の城北にて盟す。吏民は皆な其の業に復し，唯だ奴婢及び儲積を収め以て將士を賞し，軍は焉を私する無し。魏は**撝**及び**圓肅**を以て並せて開府儀同三司と為し，**迥**を以て大都督益、潼等十二州諸軍事、益州刺史と為す。

【蕭繹の梁は風前の灯火】

■［蕭繹は江陵を首都とする］庚子（36-27+1=１０日），詔を下して將に建康に還らんとし，領軍將軍の**胡僧祐**、太府卿の**黃羅漢**、吏部尚書の**宗懍**、(9-280p) 御史中丞の**劉毅**は諫めて曰く、
「建業の王氣は已に盡き，虜と正に一江を隔てるのみ，若し虞有れば，悔いるとも及ぶ無き也！且つ古老は相い承けて云う、『荊州は洲の數は滿百あり，當に**天子**を出すべし。』今枝江は洲を生じ，百數は已に滿つ，**陛下**は龍飛するは，是れ其の應也。」
上は朝臣をして之を議せ令む。黃門侍郎の**周弘正**、尚書右僕射の**王褒**は曰く、
「今百姓は未だ輿駕の建康に入るを見ず，是れ列國の諸王と謂う。願わくは**陛下**は四海之望に從うべし。」
時に群臣は多く荊州人なり，皆な曰く、
「**弘正**等は東人也，東下を志願す，恐らくは良計に非ざらん。」
弘正は之を面折（面と向かって非を責める）して曰く、
「東人は東するを勸める，良計に非ずと謂えば、君等西人は西せんと欲するは，豈に長策と為すか？」
上は笑う。又た後堂に議し，會する者は五百人，上は之に問いて曰く、
「吾は建康に還らんと欲す，諸卿は以て如何と為すや？」
衆は敢えて先に對える莫し。**上**は曰く、
「吾に去るを勸める者は左袒せよ。」
左袒する者は過半なり。武昌太守の**朱買臣**は**上**に言って曰く、
「建康は舊都なり，山陵の在る所。荊鎮は邊鞲にして，王者之宅に非ず。願わくは**陛下**は疑い，以て後悔を致す勿れ。臣の家は荊州に在り，豈に陛下の此に居るを願わざるや，但だ是れ臣の富貴にして，**陛下**の富貴に非ざるを恐れる耳！」
上は術士の**杜景豪**をして之を卜せ使め，吉ならず，**上**に對えて曰く、
「未だ去らず。」（綱目には、未だ吉ならず）
退き而して言って曰く、
「此の兆は鬼賊の留める所と為る也。」
上は建康は凋殘し，江陵は全盛なるを以て，意は亦た之を安んじ，卒に**僧祐**等の議に從う。
■湘州刺史の**王琳**を以て衡州刺史と為す。
■［王僧辯を建康、陳霸先を京口に還す］**九月**，庚午（6+60-56+1=１１日），**王僧辯**に詔して還りて建康に鎮せしめ，**陳霸先**に復た京口に還らしむ。丙子（12+60-56+1=１７日），護軍將軍の**陸法和**を以て郢州刺

史と為す。**法和**の為政は，刑獄を用いず，専ら沙門の法及び西域の幻術を以て，部曲數千人を教化し，通じて之を弟子と謂う。

北齊■［北齊と梁の緊張関係］契丹は齊の邊を寇す。壬午（18+60-56+1=２３日），**齊主**は北に冀、定、幽、安を巡り，遂に契丹を伐つ。**齊主**は**郭元建**をして水軍二萬餘人を合肥に治せ使め，將に建康を襲い，湘潭侯の**退**（梁から北に入るは 162 巻武帝太清二年にあり）を納れんとし，又た將軍の**邢景遠**、**步大汗薩**を遣わして衆を帥いて之に繼がしむ。**陳霸先**は建康に在り之を聞き，**上**に白す。**上**は**王僧辯**に詔して姑孰に鎮して以て之を御がしむ。

北齊［齊主は契丹を撃破］**冬，十月，**丁酉（33-26+1=８日），**齊主**は平州に至り，西道より長塹（曹操は烏桓を征し盧龍塞を出て、山を塹り谷を埋めること五百里、後人長塹という）に趣き，司徒の**潘相樂**をして精騎五千を帥いて東道より青山に趣か使む。辛丑（37-26+1=１２日），白狼城に至る。壬寅（38-26+1=１３日），昌黎城に至り，安德王の**韓軌**をして精騎四千を帥いて東に契丹の走路を斷た使む。癸卯（39-26+1=１４日），陽師水に至り，倍道兼行し，契丹を掩襲す。**(9-281p) 齊主**は露髻（結髪男子が冠や烏帽子をかぶらず髻をあらわ）肉袒（肩脱ぎ）し，晝夜息まず，行くこと千餘里，山嶺を逾越し，士卒の先と為り，唯だ肉を食らい水飲み，壯氣彌々厲（はげ）し。甲辰（40-26+1=１５日），契丹と遇い，奮撃し，大いに之を破り，十萬餘口，雜畜數百萬頭を虜獲す。**潘相樂**は又た青山に於いて契丹の別部を破る。丁未（43-26+1=１８日），**齊主**は還りて營州に至る。

■［王僧辯は姑孰で齊師を待つ］己酉（45-26+1=２０日），**王僧辯**は姑孰（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）に至り，婺州（ぶしゅう）（東陽郡に梁は婺州を置く、浙江省金華道金華県、現・金華市婺城区）刺史の**侯瑱**、吳郡太守の**張彪**、吳興太守の**裴之横**を遣わして壘を東關に築き，以て齊の師を待つ。

北齊［齊主は滄海を観て晉陽帰還］丁巳（53-26+1=２８日），**齊主**は碣石山に登り，滄海に臨み，遂に晉陽に如く。肆州刺史の**斛律金**を以て太師と為し，乃ち晉陽に還り，其の子の**豐樂**（斛律羨の字）を拜して武衛大將軍と為し，其の孫の**武都**（斛律光の子）に命じて**義寧公主**に尚せしめ，寵待之厚きこと，群臣は及ぶ莫し。

■北齊［梁は北齊軍を東關に撃退］閏月（元嘉暦十一月），丁丑（13+60-55+1=１９日），南豫州（姑孰に治す）刺史の**侯瑱**は**郭元建**と東關に戰い，齊の師は大敗し，溺死する者は萬を計る。**湘潭侯**は退きて鄴に復歸し，**王僧辯**は建康に還る。

■［吳州刺史を巡る抗争］吳州（五代志に、梁は鄱陽郡に吳州を置く、江西省潯陽道鄱陽県、現・上饒市鄱陽県）刺史の開建侯の**蕃**は，其の兵強きを恃みて，貢獻入らず，**上**は密に其の將の**徐佛受**をして之を圖ら令む。**佛受**は其の徒をして詐りて訟者と為らし，**蕃**に詣ら使め，遂に之を執る。**上**は**佛受**を以て建安太守と為し，侍中の**王質**を以て吳州刺史と為す。**質**は鄱陽に至り，**佛受**は之を金城に置き，自ら羅城に據り，門管（門の管籥、鍵）を掌り，舟艦甲兵を繕治し，**質**は敢えて與に爭わず。故に**開建侯**の部曲數千人は**佛受**を攻め，**佛受**は南豫州に奔り，**侯瑱**は之を殺し，**質**は始めて州事を行うを得る。

■十一月（元嘉暦十二月），戊戌（34-25+1=１０日），尚書右僕射の**王褒**を以て左僕射と為し，湘東太守の**張綰**を右僕射と為す。

突厥 北齊己未（元嘉暦十二月閏月 55-54+1=２日），突厥は復た柔然を攻め，柔然は國を擧げて齊に奔る。

突厥 北齊［齊は突厥を破る］癸亥（59-54+1=６日），**齊主**は晉陽より北に突厥を撃ち，迎えて柔然を納れ，其の可汗の**庫提**を廢し，**阿那瑰**の子の**庵羅辰**を立てて可汗と為し，之を馬邑川に置き，其の廩餼繒帛

を給す。親ら突厥を朔州に追い，突厥は降を請い，之を許し而して還る。是より貢獻すること相い繼ぐ。
●魏の尚書の**元烈**は**宇文泰**（其の官を書かないのは、旧史に因りて文を成す）を殺さんと謀り，事は洩れ，**泰**は之を殺す。
■●［江陵攻略の謀略］丙寅（2+60−54+1=９日），**上**は侍中の**王琛**をして魏に使いせ使む。太師の**泰**は陰に江陵を圖む之志有り，梁王の**察**は之を聞き，益々其の貢獻を重しとす。（梁王の察は河東王誉の仇を報いんとす）
北齊■［東方白額らは齊に反し梁に降る］**十二月**（元嘉暦十二月閏月），齊の宿預の民の**東方白額**は城を以て降り，江西の州郡（江淮の民は齊の虐政に苦しみ、相率いて江南に帰せんと欲す）は皆な兵を起こして之に應ず。

世祖孝元皇帝下承聖三年（甲戌，５５４年）

北齊［齊皇帝の暴虐開始］**春，正月**，癸巳（29−24+1=６日），**齊主**は離石（山西省冀寧道離石県、現・呂梁市離石区）の道より山胡を討ち，**斛律金**を顯州（魏收の地形志に、永安中に顯州を置き、汾州六壁城に治すと。隋の西河郡の界に在り）の道より遣わし，常山王の**演**を晉州の道より夾み攻めて，大いに之を破り，男子十三以上は皆な斬り，女子及び幼弱は以て軍に賞し，遂に石樓（山西省冀寧道石樓県、現・呂梁市石樓県）を平らぐ。石樓は絶險にして，（9−282p）魏の世より至る能わざる所なり，是に於いて遠近の山胡の懾服せざるもの莫し。都督の戰傷する有り，其の什長（十人の長）の**路暉禮**は救う能わず，**帝**は命じて其の五藏を刳ち，九人をして之を食わ令め，肉及び穢惡は皆な盡く。是より始めて威虐を為す。（今後齊主の暴虐は始まる）
■［陳霸先は齊の廣陵を圍む］**陳霸先**は丹徒より江を濟り，齊の廣陵を圍み，秦州刺史の**嚴超達**は秦郡より進みて涇州（安徽省淮泗道天長県の西北、現・滁州市天長市）を圍み，南豫州刺史の**侯瑱**、吳郡太守の**張彪**は皆な石樑に出で，之が聲援を為す。辛丑（37−24+1=１４日），晉陵太守の**杜僧明**をして三千人を帥いて**東方白額**を助け使む。
●［宇文泰は官爵の九命之典を制定］魏の太師の**泰**は始めて九命之典を作り，以て內外の官爵を敘し，流外の品を改めて九秩と為す。（三公は九命、三孤は八命、六卿は七命、上大夫は六命、中大夫は五命、下大夫は四命、上士は三命、中士は再命、下士は一命、詳細は五代志）
●［宇文泰は魏主を廢立］**魏主**は**元烈**之死するより，怨言有り，密に太師の**泰**を誅するを謀る。臨淮王の**育**、廣平王の**贊**は涕を垂れて切に諫め，聽かず。**泰**の諸子は皆な幼く，兄（宇文顯）の子の章武公の**導**、中山公の**護**は皆な鎮に出，唯だ諸婿を以て心膂と為し，大都督の清河公の**李基**、義城公の**李暉**、常山公の**於翼**は俱に武衛將軍と為り，禁兵を分けて掌る。**基**は，**遠**之子。**暉**は，**弼**之子。**翼**は，**謹**之子也。是由り**魏主**の謀は洩れ，**泰**は**魏主**を廢し，之を雍州に置き，其の弟の齊王の**廓**（文帝の第四子）を立てる。年號を去りて，元年と稱し，姓を**拓跋氏**に複す。九十九姓（魏が姓を改革したのは 140 巻齊の明帝建武三年にあり）を改めて單と為す者は，皆な其の舊に復す。魏の初め國を統べること三十六，大姓は九十九，後に多く滅絕す。**泰**は乃ち諸將の功高き者を以て三十六姓（続による、國×）と，次の者は九十九姓と為し，將いる所の士卒も亦た改めて其の姓に從う。
■**三月**，丁亥（23−23+1=１日），長沙王の**韶**は巴郡を取る。（西魏は成都を取ったばかりで、巴都を取る余裕無し）
■甲辰（40−23+1=１８日），**王僧辯**を以て太尉、車騎大將軍と為す。
北齊丁未（43−23+1=２１日），齊の將の**王球**は宿預を攻め，**杜僧明**は出擊し，之を大破し，**球**は彭城に歸る。
■郢州刺史の**陸法和**は上啟して自ら司徒と稱し，**上**は之を怪しむ。**王褒**は曰く、

「**法和**は既に道術有り，先知する或る容し。」
戊申（44-23+1=２２日），**上**は就きて**法和**を拜して司徒と為す。
■●［梁の不遜に宇文泰は策略］己酉（45-23+1=２３日），魏の侍中の**宇文仁恕**は來聘す。會々齊の使者も亦た江陵に至り，**帝**は**仁恕**を接すること齊使に及ばず，**仁恕**は歸り，以て太師の**泰**に告げる。**帝**は又た舊圖に據りて疆境を定めんと請い，辭は頗る不遜なり，**泰**は曰く、
「古人に言有り，『天之棄てる所，誰か能く之を興さん』（左傳にあり、晉の胥午の言），其れ**蕭繹**之謂い乎！」
荊州刺史の**長孫儉**は屢々攻取之策を陳べ，**泰**は**儉**を征して入朝せしめ，問うに經略を以てし，命を覆して鎮に還り，密に之が備えを為さしむ。**馬伯符**（武帝の太清三年に楊忠は入寇す。馬伯符は下溠城を以て之に降る。因りて西魏に留まる）は密に使いして**帝**に告げ，**帝**は之を信じず。

【柔然と北齊の攻防】

北齊［柔然は北齊に反す］柔然可汗の**庵羅辰**は齊に叛き，**齊主**は自ら將いて出擊し，之を大破し，**庵羅辰**父子は北に走る（9-283p）。太保の安定王の**賀拔仁**は馬を獻じ甚だ駿ならず，**齊主**は怒り，其の發（髪）を抜き，免じて庶人と為し，晉陽に輸（おく）りて炭を負わしむ。
北齊［魏收の魏書は穢史］齊の中書令の**魏收**は《魏書》（東魏の孝静帝の天保二年に魏收に詔して魏史編纂を命じる）を撰し，頗る愛憎を用いて褒貶を為し，毎に人に謂って曰く、
「何物の小子，敢えて**魏收**と色を作す（太平御覧文部には、隙を作す）や！之を舉げれば則ち天に升ら使め，之を按ずれば則ち地に入ら使むべし！」
既に成り，中書舍人の**盧潛**は奏す、（続は、收を奏すとする×）
「**收**は一代を誣罔す，罪は當に誅すべし！」
尚書左丞の**盧斐**、頓丘の**李庶**は皆な《魏史》は直ならずと言う。**收**は**齊主**に啟して云う、
「臣は既に怨みを強宗（山東の望族）に結ぶ，將に刺客の殺す所と為らんとす。」
帝は怒り，是に於いて**斐**、**庶**及び尚書郎中の**王松年**は皆な史を謗るに坐して，鞭二百とし，甲坊（甲を製造する坊）に配す。**斐**、**庶**は獄中に死し，**潛**も亦た坐して獄に繋がる。然るに時人は終に服さず，之を「穢史」と謂う。**潛**は，**度世**（132 巻宋の明帝泰始三年にあり）之曾孫。**斐**は，**同**（148 巻梁の武帝天監 16 年にあり）之子。**松年**は，**遵業**（152 巻大通二年にあり）之子也。
北齊［柔然は北齊に反す］**夏，四月**，柔然は齊の肆州を寇し，**齊主**は晉陽より之を討ち，恆州に至り，柔然は散走す。**帝**は二千餘騎を以て殿と為し，黄瓜堆に宿す。柔然の別部數萬騎は奄至し，**帝**は安臥し，平明乃ち起き，神色自若たり，形勢を指畫し，兵を縦ちて奮擊す。柔然は披靡し，因りて圍みを潰し而して出ず。柔然は走り，之を追擊し，伏屍二十餘里，**庵羅辰**の妻子を獲り，虜は三萬餘口，都督の善無の**高阿那肱**をして騎數千を帥いて其の走路を塞が令む。時に柔然の軍は猶ほ盛んなり，**阿那肱**は兵の少なきを以て，益さんと請い，**帝**は更に其の半を減ず。**阿那肱**は奮擊し，大いに之を破る。**庵羅辰**は巖谷を超越し，僅に身を以て免る。
■丙寅（2+60-52+1=１１日），**上**は散騎常侍の**庾信**等をして魏に聘せ使む。
■癸酉（9+60-52+1=１８日），**陳霸先**を以て司空と為す。
北齊丁未（五月なら 43-22+1=２２日），**齊主**は復た自ら柔然を擊ち，大いに之を破る。
●庚戌（46-22+1=２５日），魏の太師の**泰**は**廢帝**を鴆殺す。

●［魏は漢中の乱を平定］五月，魏の直州（五代志に、西城郡の安康県に齊は安康郡を置く。魏は東梁州を置き、改めて直州という。陝西省漢中道漢陰県、現・安康市漢陰県）人の**樂熾**、洋州（漢川郡西鄉県は旧豐寧といい、洋州及び洋川郡を置く、陝西省漢中道西鄉県、現・漢中市西鄉県）人の**黃國**等は亂を作り，開府儀同三司の高平の**田弘**、河南の**賀若敦**は之を討ち，克たず。太師の**泰**は車騎大將軍の**李遷哲**に命じて**敦**と共に**熾**等を討ち，之を平らぐ。仍って**敦**と南に出で，地に徇いて巴州（後漢は宕渠の北界を分けて漢昌県を於く。蜀の先主は巴西軍を置く。宋の武帝は帰化郡を置く。魏は漢昌の治に於いて大谷郡を置き、又郡北に於いて巴州を置く。四川省嘉陵道巴中県、現・巴中市巴州区）に至り，巴州刺史の**牟安民**は之を降し，巴、濮（春秋の巴子の国は三巴郡の地これなり。春秋の百濮の地は西城・上庸の間に在り）之民は皆な魏に附く。蠻酋の**向五子王**等は白帝を陷とし，**遷哲**は之を擊ち，**五子王**等は遁げ去り，**遷哲**は追擊し，之を破る。**泰**は**遷哲**を以て信州刺史と為し，白帝に鎮せしむ。信州は先に儲蓄無し，**(9-284p) 遷哲**は軍士と共に葛根を采りて糧と為し，時に異味有れば，輒ち分けて之を嘗め，軍士は感悅す。屢々叛蠻を擊ち，之を破り，群蠻は懾服し，皆な糧餼を送り，子弟を遣わして入れて質たらしむ。是に由り州境は安息し，軍儲も亦た贍る。

●柔然の**乙旃達官**は魏の廣武（山西省雁門道代県、現・忻州市代県）を寇し，柱國の**李弼**は追擊し，之を破る。

■［蕭繹は王琳を遠ざける］廣州刺史の曲江の**侯勃**は，自ら**上**の授ける所に非ざる（陳霸先が侯勃を廣州刺史に推す、162 巻武帝太清三年にあり）を以て，內に自ら安ぜず，**上**も亦た之を疑う。**勃**は啟して入朝するを求める。**五月**，乙巳（41-22+1=２０日），**上**は**王琳**を以て廣州刺史と為し，**勃**を晉州（五代志に、同安郡に梁は豫州を置く、後改めて晉州という、福建省厦門道同安県、現・厦門市同安区）刺史と為す。**上**は**琳**の部衆の強盛にして，又た衆心を得るを以て，故に之を遠ざけんと欲す。**琳**は主書の廣漢の**李膺**と厚く善く，私に**膺**に謂って曰く、

「**琳**は，小人也，官の拔擢を蒙りて此に至る。今天下は未だ定まらず，**琳**を嶺南に遷し，如し不虞有れば，安んぞ**琳**の力を得ん！竊に官の意を揆るに**琳**を疑うに過ぎず，琳の分望（身の分、人の望）は有限なり，豈に官と**帝**と為るを爭わん乎！何ぞ**琳**を以て雍州刺史と為し，武寧に鎮せしめざるや，**琳**は自ら兵を放ち田を作り，國の為に御捍せん。」

膺は其の言を然りとし而るに敢えて啟せず。

■［庾季才の江陵滅亡の予言］散騎郎の新野の**庾季才**は**上**に言って曰く、

「去年八月の丙申，月は心の中星を犯し，今月の丙戌，赤氣は北斗を干す。心は**天王**と為し，丙は楚の分を主る，臣は建子之月に大兵有りて江陵に入るを恐れる。**陛下**は宜しく重臣を留めて江陵に鎮し，旆を整えて都に還り以て其の患を避くべし。假令魏虜の侵蹙するとも，止だ荊、湘を失うのみ，社稷に在りては，猶ほ慮り無きを得ん。」

上も亦た天文を曉り，楚に災い有るを知り，歎じて曰く、

「禍福は天に在り，之を避けるとも何の益あらん！」

北齊■［北齊は梁の廣陵・海西を圧迫］六月，壬午（18+60-52+1=２７日），齊の**步大汗薩**は兵四萬を將いて涇州に趣き，**王僧辯**は**侯瑱**、**張彪**をして石樑より兵を引いて**嚴超達**を助けて之を拒ま使め，**瑱**、**彪**は遲留して進まず。將軍の**尹令思**は萬餘人を將いて盱眙を襲わんと謀る。齊の冀州刺史の**段韶**は兵を將いて**東方白額**を宿預に討ち，廣陵、涇州は皆な來たりて急を告げ，諸將は之を患う。**韶**は曰く、

「**梁氏**は喪亂し，國に定主無く，人は去就を懷い，強者に之に從う。**霸先**等は外に同德に托す，內に離心有り，諸君は憂うるに足らず，吾は之を揣ること熟したり矣！」

乃ち儀同三司の**敬顯儁**（攜×、続の携×）等を留めて宿預を圍み，自ら兵を引いて倍道して涇州に趣き，塗は盱眙に出る。**令思**は齊の兵の猝に至るを意わず，風を望みて退き走る。**韶**は進みて**超達**を擊ち，之を破り，

回りて廣陵に趣き，**陳霸先**は圍みを解いて走る。**杜僧明**は丹徒に還り，**侯瑱**、**張彪**は秦郡に還る。**吳明徹**は海西（前漢東海郡の県、後漢に廣陵郡に属す。江蘇省徐海道東海県、現・連雲港市東海県）を圍み，鎮將の中山の**郎基**は固守し，木を削りて箭と為し，紙を剪りて羽と為す。之を圍むこと十旬，卒に克つ能わず而して還る。(9-285p)

北齊［柔然はさらに縮少］柔然は餘衆を帥いて東に徙り，且つ南寇せんと欲し，**齊主**は輕騎を帥いて之を金川（唐志に、単于府は金河県を帯びると。其れ即ち金川か。文宣紀には金川を金山下に作る。北史蠕蠕傳には金川下に作る）に邀える。柔然は之を聞き，遠く遁げ，營州刺史の靈丘の**王峻**は伏を設けて之を擊ち，其の名のある王數十人を獲る。

●鄧至の**羌簪桁**は國を失い，魏に奔り，太師の**泰**は秦州刺史の**宇文導**をして兵を將いて之を納れ使む。

北齊［段韶は宿預の東方白額を墜とす］齊の**段韶**は還りて宿預に至り，辯士をして**東方白額**を說か使め，**白額**は開門して盟を請い，因りて執り而して之を斬る。

北齊**秋，七月**，庚戌（46-21+1=２６日），**齊主**は鄴に還る。

●魏の太師の**泰**は西に巡り，原州に至る。

北齊**八月**，壬辰（壬申なら 8+60-51+1=１８日），齊は司州牧の清河王の**岳**を以て太保と為し，司空の**尉粲**を司徒と為し，太子の太師の**侯莫陳相**を司空と為し，尚書令の平陽王の**淹**をして尚書事を錄さしめ，常山王の**演**を尚書令と為し，中書令の上黨王の**渙**を左僕射と為す。

北齊［齊主は高隆之とその一族を惨殺］乙亥（11+60-51+1=２１日），齊の儀同三司の**元旭**は事に坐して死を賜わる。丁丑（13+60-51+1=２３日），**齊主**は晉陽に如く。**齊主**之未だ魏の相と為らざる也，太保、錄尚書事の平原王の**高隆之**は常に之を侮る。將に受禪するに及び，**隆之**は復た以て不可と為し（163 巻簡文帝大寶元年にあり），**齊主**は是に由りて之を銜む。**崔季舒**は**隆之**を譖す、（崔季舒は辺境に徒るの怨みに報いる）

「訴訟の者を見る毎に、輒ち哀矜之意を加える，以て己が能く裁するに非ざるを示す。」

帝は之を尚書省に禁ず。**隆之**は嘗て**元旭**と飲み，**旭**に謂って曰く、

「王と交わる，當に生死相い負(そむ)かざるべし。」

人の密に之を言う者有り，**帝**は是に由りて怒りを發し，壯士をして百餘拳を築(う)ち而して之を捨て使む。辛巳（17+60-51+1=２７日），路に卒す。之久しく，**帝**は**隆之**を追忿し，其の子の**慧登**等二十人を前に執り，**帝**は鞭を以て鞍を叩き，一時に頭絕え，並に屍を漳水に投げる。又た**隆之**の塚を發き，其の屍を出し，骸骨を斬截して之を焚き，漳水に棄てる。

北齊［齊主は四城を洛陽西南に築く］**齊主**は常山王の**演**、上黨王の**渙**、清河王の**岳**、平原王の**段韶**をして衆を帥いて洛陽の西南に於いて伐惡城、新城、嚴城、河南城を築か使む。**九月**，**齊主**は四城を巡り，以て魏師を致さんと欲し，魏師は出でず，乃ち晉陽に如く。

【西魏は江陵に侵攻】

●［漢中街道の開通］魏の**宇文泰**は侍中の**崔猷**に命じて回車路（回は通、車路を開通の意味）を開きて以て漢中に通ぜしむ。

■**帝**は玄談を好み，辛卯（27-20+1=８日），龍光殿に於いて《老子》を講ず。

■曲江侯の**勃**は遷りて始興に居り，**王琳**は副將の**孫瑒**をして先行して番禺に據ら使む。

●■［西魏は蕭繹を値踏みして侵攻］乙巳（41-20+1=２２日），魏は柱國の常山公の**於謹**、中山公の**宇文護**、大將軍の**楊忠**を遣わして兵五萬を將いて入寇す。**冬，十月**，壬戌（58-50+1=９日），長安を發す。**長**

孫儉は**謹**に問いて曰く、
「**蕭繹**之計を為すに，將に（之を、続）如何？」
謹は曰く、
「兵を漢、沔に耀かし，席捲して江を度り，直に丹楊に據る（東して建康に還る）は，上策也。郭内の居民を移して退きて子城を保ち，其の陴堞（城のひめがき）を峻にし，以て援軍を待つは，中策也。若し移動に於いて難なれば，(9-286p) 羅郭を據守するは，下策也。」
儉は曰く、
「**繹**を揣るに定めて何の策に出でん？」
謹は曰く、
「下策なり。」
儉は曰く、
「何故なりや？」
謹は曰く、
「**蕭氏**は江南を保據し，綿歴すること數紀（十二年一紀），中原の多故に屬し，未だ外略するに遑（ひま）あらず。又た我に**齊氏**之患有るを以て，必ず力を分かつ能わずと謂う。且つ**繹**は懦に而して謀無く，多く疑い少なく斷ず。愚民は與に始めを慮り難く，皆な邑居を戀い，其の下策を用いるを知る所以也。」
■<u>［王琛は否定するも、西魏の来寇を覚悟］</u>癸亥（59-50+1=１０日），武寧太守の**宗均**は魏兵の且（まさ）に至らんとするを告げ，**帝**は公卿を召して之を議す。領軍の**胡僧祐**、太府卿の**黄羅漢**は曰く、
「二國は通好し，未だ嫌隙有らず，必ず應に爾らず。」
侍中の**王琛**（去年魏に使いす）は曰く、
「臣は**宇文**の容色を揣るに，必ず此の理無し。」
乃ち復た**琛**をして魏に使いせ使む。丙寅（2+60-50+1=１３日），**於謹**は樊、鄧に至り，梁王の**察**は衆を帥いて之に會す。丁卯（3+60-50+1=１４日），**帝**は講（老子の講義）を停め，内外は戒嚴す。**王琛**は石梵（沔州の河口の上、湖北省漢口）に至り，未だ魏軍を見ず，書を馳せて**黄羅漢**に報じて曰く、
「吾は石梵に至り，境上は帖然たり，前言は皆な兒戯耳。」
帝は聞き而して之を疑う。庚午（6+60-50+1=１７日），復た講じ，百官は戎服し以て聽く。辛未（7+60-50+1=１８日），**帝**は主書の**李膺**をして建康に至ら使め，**王僧辯**を征して大都督、荊州刺史と為し，**陳霸先**に命じて徙りて揚州に鎮せしむ。**僧辯**は豫州刺史の**侯瑱**を遣わして**程靈洗**等を帥いて前軍と為し，兗州刺史の**杜僧明**は**吳明徹**等を帥いて後軍と為す。甲戌（10+60-50+1=２１日），**帝**は夜鳳皇閣に登り，徙倚（欄干に依り處を徙す）し歎息して曰く、
「客星は翼、軫（28宿の二、楚、荊州の分）に入る、今必ず敗れん矣！」
嬪御は皆な泣く。
■<u>［陸法和は城門を白土で塗る］</u>**陸法和**は魏師の至るを聞き，郢州より漢口に入り，將に江陵に赴かんとす。**帝**は之を逆え使めて曰く、
「此れ自ら能く賊を破らん，但だ郢州に鎮ずべし，須く動くべからざる也！」
法和は州に還り，其の城門を堊（あく）し（しろつち、白土を以て縄文を塗り、喪有るを示す），衰絰（喪服）を著，葦席に坐し，終日，乃ち之を脱す。（胡三省曰く、此れ法和は豫め君を喪するの服を為す。設い法和をして江陵に至らしむるとも、亦魏の兵の攻囲を制する能わず。此れ其の徒は法和の術を神にせんと欲し、託して之が言を為し、以て能く来たるを知ると為すなるのみと）

■●［魏軍は江陵に至り戦闘開始］十一月，帝は大いに津陽門（江左は建康に都し、外城十二門は門名は皆洛陽に倣う。帝は江陵に都し、外城門も亦建康の城門に依りて名付ける。城の南面東來の第二門）外に於いて闕し，北風暴雨に遇い，輕輦にて宮に還る。癸未（19-19+1=１日），魏軍は漢を濟り，**於謹**は**宇文護**、**楊忠**をして精騎を帥いて先ず江津に據り，東路を斷た令む。甲申（20-19+1=２日），**護**は武寧に克ち，**宗均**を執る。是の日，**帝**は馬に乘りて城を出で柵を行り，木を插みて之を為り，周圍は六十餘里。領軍將軍の**胡僧祐**を以て都督城東諸軍事と為し，尚書右僕射の**張綰**を之の副と為し，左僕射の**王褒**を都督城西諸軍事とし，四廂領直の**元景亮**を之が副と為す。王公已下各々守る所有り。丙戌（22-19+1=４日），**太子**に命じて城樓を巡行せしめ，居人をして助けて木石を運ば令む。夜，魏軍は黃華に至る，江陵を去ること四十里，丁亥（23-19+1=５日），柵下に至る。戊子（24-19+1=６日），巂州（越巂郡に梁は置く、現・涼山イ族自治州越西県）刺史の**裴畿**、**畿**の弟の新興太守の**機**、**(9-287p)** 武昌太守の**朱買臣**、衡陽太守の**謝答仁**は枇杷門を開いて出でて戰い，**裴機**は魏の儀同三司の**胡文伐**を殺す。**畿**は，**之高**之子也。

■●［魏軍は江陵包囲］**帝**は廣州刺史の**王琳**を征して湘州（続は湘東）刺史と為し，兵を引いて入援せ使む。丁酉（33-19+1=１５日），柵內に火あり，數千家及び城樓二十五を焚き，**帝**は焚く所の樓に臨み，魏軍の江を濟るを望み，四顧して歎息す。是の夜，遂に宮外に止まり，民家に宿す。己亥（35-19+1=１７日），稱（続は移）して祇洹寺に居る。**於謹**は長圍を築か令め，中外の信命は始めて絕つ。

■●［城を巡り励ます皇帝］庚子（36-19+1=１８日），信州刺史の**徐世譜**、晉安王の司馬の**任約**等は壘を馬頭（江陵の南岸をいう）に築き，遙に聲援を為す。是の夜，**帝**は城を巡り，猶ほ口占して詩を為り，群臣も亦た和する者有り。**帝**は帛を裂きて書を為り，**王僧辯**を趣して曰く、

「吾は死を忍んで公を待ち，以て至る可し矣！」

壬寅（38-19+1=２０日），宮に還る。癸卯（39-19+1=２１日），長沙寺に出る。戊申（44-19+1=２６日），**王褒**、**胡僧祐**、**朱買臣**、**謝答仁**等は開門して出でて戰い，皆な敗れて還る。己酉（45-19+1=２７日），**帝**は移りて天居寺に居る。癸丑（十二月 49-49+1=１日），移りて長沙寺に居る。**朱買臣**は劍を按じて進みて曰く、

「唯だ**宗懍**、**黃羅漢**を斬り，以て天下に謝す可し！」

帝は曰く、

「曩には實は吾が意なり，**宗**、**黃**何の罪かあらん！」（二人が帝の建康に還るを諫めた罪）

二人は退きて衆中に入る。

■●［裴政の報国の報告］**王琳**の軍は長沙に至り，鎮南府の長史の**裴政**は間道して先ず江陵に報ずるを請い，百里洲に至り，魏人の獲る所と為る。梁王の**察**は**政**に謂って曰く、

「我は，**武皇帝**之孫也，爾が君と為る可からん乎？若し我が計に從えば，貴は子孫に及ぶ。。如し或は然らざれば，腰領分かれん矣。」

政は詭りて對えて曰く、

「唯だ命のままなり。」

察は之を鎖して城下に至り，言って曰わ使む、

「**王僧辯**は台城（当時江陵に都し、上台の在る所を台城とする）の圍まれるを聞き，已に自ら**帝**と為る。王琳は孤弱なり，復た能く來たらず。」

政は城中に告げて曰く、

「援兵は大いに至る，各々自ら勉めるを思え。吾は間使を以て擒えられる，當に身を碎きて國に報じる。」

監者は其の口を撃ち，**察**は怒り，命じて速かに之を殺さしむ。西中郎（梁が襄陽に置く）参軍の**蔡大業**は諫めて曰く、
「此れ民望也，之を殺せば，則ち荊州は下る可からず矣。」
乃ち之を釋す。**政**は，**之禮**（裴邃の子）之子。**大業**は，**大寶**之弟也。

【江陵陥落、皇帝誅殺】

■●［胡僧祐は戦死し、江陵城南は敗れる］時に四方に徵兵し，皆な未だ至らず。甲寅（十二月 50-49+1=２日），魏人は百道より城を攻め，城中は戸を負い楯を蒙り，**胡僧祐**は親ら矢石に當たり，夜を盡くして督戰し，將士を奬勵し，明らかに賞罰を行い，衆は鹹な死を致し，向かう所摧殄し，魏は前むを得ず。俄に而して**僧祐**は流矢に中たりて死し，內外は大いに駭く。魏は衆を悉くして柵を攻め，反く者は西門を開きて魏師を納れ，**帝**は**太子**、**王褒**、**謝答仁**、**朱買臣**と退きて金城を保ち，汝南王の**大封**（簡文帝の子）、晉熙王の**大圓**（簡文帝の子）をして**于謹**に質とし以て和を請わ令む。魏軍之初めて至る也，衆は**王僧辯**の子の侍中の**顗**を以て都督と為す可しとし，**帝**は用いず，更に其の兵を奪い，左右十人と與に入りて殿中を守ら使む。**胡僧祐**の死するに及び，乃ち用って都督城諸軍事と為す。**裴畿**、**裴機**、歷陽侯の**峻**は皆な出でて降る。**於謹**は**機**が手ずから**胡文伐**を殺すを以て，(9-288p) **畿**を並せて之を殺す。**峻**は，**淵猷**（長沙王懿の子）之子也。時に城南は破れると雖も，而るに城北の諸將は猶ほ苦戰す。日暝れ，城の陷ちるを聞き，乃ち散る。
■●［皇帝の焚書、捕虜となる］**帝**は東閣の竹殿に入り，舍人の**高善寶**に命じて古今の圖書十四萬卷を焚かしめ，將に自ら火に赴かんとし，宮人左右は共に之を止める。又た寶劍を以て柱を斫り折れ令め，歎じて曰く、
「文武之道は，今夜盡きぬ矣！」
乃ち御史中丞の**王孝祀**をして降文を作ら使む。**謝答仁**、**朱買臣**は諫めて曰く、
「城中の兵衆は猶ほ強く，暗に乘りて圍みを突き而して出でれば，賊は必ず驚かん，因りて而して之に薄れば，江を渡りて**任約**（江対岸の馬頭に壘を築く）に就く可し。」
帝は素より馬を走らすに便ならず，曰く、
「事は必ず成る無く，只（続は祇）だ辱を增さん耳！」
答仁は自ら扶けんことを求め，**帝**は以て**王褒**に問い，**褒**は曰く、
「**答仁**は，**侯景**之黨なり，豈に信じる可くに足りん！彼之勳を成すのみ，降るに如かざる也。」
答仁は又た子城を守るを請い，
「兵を收めれば、五千人を得る可し」
と，**帝**は之を然りと為し，即ち城中大都督を授け，以て**公主**を配す。既に而して**王褒**を召して之を謀り，以て不可と為す。**答仁**は入らんと請えども得ず，歐血し而して去る。**於謹**は**太子**を征して質と為し，**帝**は**王褒**をして之を送ら使む。**謹**の子は**褒**が書を善くするを以て，之に紙筆を給し，**褒**は乃ち書して曰く、
「柱國常山公（於謹）の家奴の**王褒**。」
頃く有りて，黃門郎の**裴政**は門を犯し而して出でる。**帝**は遂に羽儀文物を去り，白馬素衣にして東門を出で，劍を抽き闔（門扉）を撃ちて曰く、
「**蕭世誠**（帝の字）、一に此に至る乎！」
魏の軍士は塹を度りて其の轡を牽き，白馬寺の北に至り，其の乘る所の駿馬を奪い，駑馬を以て之に代え，長壯の胡人を遣わして手ずから其の背を扼して以て行かしめ，**於謹**に逢い，胡人は**帝**を牽いて拜せ使

む。梁王の**察**は鐵騎をして**帝**を擁して營に入ら使め，烏幔之下に囚り，甚だ**察**の詰辱する所と為る。乙卯（十二月 51-49+1=３日），**於謹**は開府儀同三司の**長孫儉**をして入りて金城に據ら令む。**帝**は**儉**を紿(あざむ)きて云わく、

「城中に金千斤を埋める，以て相い贈らんと欲す。」

儉は乃ち**帝**を將いて入城す。**帝**は因りて**察**に辱しめられる之狀を述べ，**儉**に謂って曰く、

「向に聊(いささ)か相い紿くは，此を言わんと欲す耳，豈に**天子**自ら金を埋める有らん乎！」

儉は乃ち**帝**を主衣庫（江陵の金城の禁中にあり）に留む。

■［蕭繹は残忍厳峻］**帝**の性は殘忍なり，且つ**高祖**の寛縦之弊に懲り，故に政を為すに嚴を尚ぶ。魏師の城を圍むに及び，獄中の死囚は且(まさ)に數千人，有司は之を釋して以て戰士に充てるを請う。**帝**は許さず，悉く之を棓殺せ令め，事は未だ成らず而して城陷つ。

■［殷不害は母の屍を求める］中書郎の**殷不害**は先に別所に於いて督戰し，城陷ち，其の母を失う。時に冰雪交々積もり，凍死者は溝塹に填滿す。**不害**は行々道に於いて哭し，其の母の屍を求め，至らざる所無し。溝中の死人を見れば，輒ち投下して捧視し，擧體凍濕し，水漿は口に入らず，號哭して聲を輟めず。是くの如くして七日，乃ち之を得る。

■●［皇帝は不自由なり］十二月，丙辰（52-49+1=４日），**徐世譜**、**任約**は退きて巴陵に戍す。**於謹**は**帝**に逼りて書を為りて**王僧辯**を召さ使め，**帝**は可からず。使者は曰く、

「王は今豈に自ら由るを得んや？」

帝は曰く、(9-289p)

「我は既に不自由なり，**僧辯**も亦た我に由らず。」

又た**長孫儉**に從いて宮人の**王氏**、**荀氏**及び幼子犀首を求め，**儉**は並びに之を還す。或は問う、

「何の意ありてか書を焚くや？」

帝は曰く、

「讀書萬卷，猶ほ今日有り，故に之を焚く！」

北齊庚申（56-49+1=８日），**齊主**は北を巡り，達速嶺に至り，山川の險要を行視し，將に長城を起こさんとす。

■●後梁［元帝蕭繹殺害、西魏の傀儡の後梁の成立］辛未（7+60-49+1=１９日），**帝**は魏人の殺す所と為る。梁王の**察**は尚書の**傅准**を遣わして刑を監せしめ，土囊を以て之を隕(おと)す。**察**は布帕を以て屍を纏(まと)め使め，斂(おさ)めるに蒲席を以てし，束ねるに白茅を以てし，津陽門外に葬す。並せて愍懷太子の**元良**、始安王の**方略**、桂陽王の**大成**等を殺す。**世祖**（元帝蕭繹、梁第４代皇帝、508-554、蕭方智が諡す）は書を好み，常に左右をして讀書せ令め，晝夜絕えず，熟睡すると雖も，卷は猶ほ釋かず，或は差誤し及び之を欺けば，**帝**は輒ち驚き瘚(さ)める。文章を作るに，筆を援(と)れば立ちどころに就(な)る。常に言う、

「我は文士に韜(あま)り（器幣の余用有る者を寬韜と為す、これ韜と同義），武夫に愧じる。」

論者は以て言を得たりと為す。魏は梁王の**察**を立てて**梁主**（後梁 555-587）と為し，資するに荊州之地，延袤三百里を以てし，仍って其の雍州之地を取る。**察**は江陵の東城に居り，魏は防主を置き，兵を將いて西城に居らしめ，名づけて助防と曰い，外は**察**を助けて備御を示し，內は實に之を防ぐ。前儀同三司の**王悅**を以て留めて江陵に鎮せしむ。**於謹**をして府庫の珍寶及び宋の渾天儀（元嘉 13 年に銭榮の鋳る所）、梁の銅晷表（武帝が造る）、大玉の徑四尺及び諸々の法物を收めしむ。盡く王公以下を俘とし、及び百姓の男女數萬口を選びて奴婢と為し，分けて三軍に賞し，驅りて長安に歸る。小弱なる者は皆な之を殺す。免るるを得る者

は三百餘家，而して人馬の踐む所及び凍死する者は什に二三なり。(江陵の俘虜は後まで悲惨、顔之推の「顔氏家訓」にあり、)

●［尹德毅は察に於謹を殺すを進言］魏師之江陵に在る也，梁王の**察**の將の**尹德毅**は**察**に說いて曰く、

「魏虜は貪惏にして，其の殘忍を肆にし，士民を殺掠し，勝げて紀す可からず。江東之人の塗炭は此に至る，鹹な**殿下**之を為すと謂えり。**殿下**は既に人の父兄を殺し，人の子弟を孤とし，人は盡く仇也，誰と與にか國を為すや！今魏之精銳は盡く此に萃まる，若し**殿下**が為に享會を設け，**於謹**等に請いて歡を為し，預め武士を伏し，因り而して之を斃し，分けて諸將に命じ，其の營壘を掩わしめ，大いに群丑を殲ぼして，遺類無さ俾め。江陵の百姓を收め，撫し而して之を安んじ，文武の群寮，材に隨いて銓授すれば、魏人は懾息し，未だ敢えて死を送らず，**王僧辯**之徒は，折簡して致す可し。然る後に朝服して江を濟り，入りて皇極を踐めば(建康に還りて即位する事)，晷刻之間に，大功は立つ可し。古人は云わく、『天の與えるを取らざれば，反りて其の咎を受ける』と。願わくは**殿下**は遠略を恢弘(広く大きくする)，匹夫之行い(小廉小謹以て自ら鄉党に託するなり)を懷う勿かれ。」

察は曰く、

「卿の此の策は善からざるに非ざる也，然れども魏人は我を待つこと厚く，未だ背德す可からず。若し遽に卿の計を為せば，人は將に吾が餘を食わざらんとす。(左傳にあり鄧祁侯の言)」

既にして闔城の長幼を擊(続は無し)ち**(9-290p)**虜にせられる，又た襄陽を失い，**察**は乃ち歎じて曰く、

「恨むらくは**尹德毅**之言を用いざりし！」

■［王僧辯、陳霸先は方智を擁立］**王僧辯**、**陳霸先**等は共に江州刺史の晉安王の**方智**を奉じて太宰と為し，製を承けしむ。

●［宇文泰は於謹らを礼遇］**王褒**、**王克**、**劉殼**(殼の几は王)、**宗懍**、**殷不害**及び尚書右丞の吳興の**沈炯**は長安に至り，太師の**泰**は厚く之を禮す。**泰**は親ら**於謹**の第に至り，宴し勞りて歡を極め，**謹**に奴婢千口及び梁之寶物並びに雅樂一部を賞し，別に(既に常山公)新野公に封じる。**謹**は固辭し，許さず。**謹**は自ら久しく重任に居り，功名は既に立つを以て，優閒を保たんと欲し，乃ち先に乘る所の駿馬及び著ける所の鎧甲等を上る。**泰**は其の意を識り，曰く、

「今巨猾(齊のこと)は未だ平かず，公は豈に遽爾として獨り善くする(孟子曰く、達すれば乃ち兼ねて天下を善くし、窮すれば乃ち獨り其の身を善くすと)を得んや！」

遂に受けず。

●是の歲，魏の秦州刺史の章武孝公の**宇文導**は卒す。

●［尉遲迥は劍閣以南を分治］魏は益州刺史の**尉遲迥**に督六州を加え，前を通じて十八州，劍閣より以南は，製を承けて封拜し及び黜陟するを得る。**迥**は賞罰を明かにし，威恩を布き，新民を綏輯し，未だ附かざるを經略し，華、夷は之に懷く。

令和 5 年 5 月 3 日　　9782 文字

令和 5 年 5 月 12 日　20517 文字